

1. 対象学年 第3学年

2. 単元名 わたしたちの町のスーパーマーケット

3. 単元設定の理由

中学年の社会科は地域学習である。身近な地域を調査，見学をして問題解決的な活動を行うことにより，地域社会の社会的事象の特色や相互の関連について考える力を育てることがねらいとなる。この為，「問い」を中心とした学習活動を仕組み，学習者自身の考えを膨らませながら，自分なりの意思決定をはかる活動を大切にしたいと考えてきた。また，地域学習は3～4学年にわたる長いスパンでおこなわれる。そこで，単元間の関連を図りながら，自分たちの地域の特色を点ではなく面で捕らえ，地域を総体として考えさせることを大切にしていきたい。

本単元において，子どもたちに捉えさせたい地域は河内町の地域社会である。河内町では，人口の減少，高齢化，競合店の郊外進出などが，地域産業に様々な影響を与えている。その中で，河内町で販売に携わる人々は，自分たちの生活を守るために様々な工夫をし，売り上げを伸ばしている。販売店のそうした工夫を考えることによって，地域の特色を考えることができると思われる。具体的には，地域にある商店としてスーパーマーケットを素材として取り上げる。地域の生産と販売における人々の工夫を考える時，生活経験に根ざした身近なスーパーを取り上げることによって，児童が興味を持って取り組むことが出来ると思われるからである。

指導にあたっては，河内町の産業の特色を販売の視点から考えさせるために，店舗数の減少と取引金額の増加という相矛盾した現象を「問い」に基づいて考察させ，それを実際の見学活動に生かしていく。その場合，予想から検証という流れを大切に，河内町の商店の秘密を自分なりの考えでまとめさせる。また，そのまとめに基づいて，自分ならどんな店を作るかデザインし，HTML化する。これは，自分の考えを事象間の関連を図りながら再構成し，表現する活動を大切にしていきたいと考えているからである。このような活動によって，学級の中だけでなく広く社会との交流の中で，生徒の考えを広げていくことができると思われる。

4. 単元の目標

【社会的事象への関心・意欲・態度】

自分たちの家庭の買い物や河内町の商店の様子を調べることを通して，地域の販売活動に興味を持ち，その中から出てきた疑問や課題を解決していこうとする意欲をもつ。

河内町の商店の販売活動を調べ，その工夫に気づき，自分なりの店を考える活動を通して，自分たちも地域をよりよくしていこうとする地域社会の一員としての自覚を育てる。

【社会的な思考・判断】

河内町の商店の販売活動を調べる活動の中で自分の予想はどうであったか，それはどのような事実に基づくのか考え，消費と販売の双方からよりよい店を作るにはどうしたらいいか自分なりの考えを明らかにする。

【観察・資料活用の技能・表現】

自分の考えを深めるために，地域に関する資料を効果的に活用したり，パソコンとインターネットを利用して調べたことを表現したり，発信したりすることができる。

【社会的事象についての知識・理解】

河内町の商店は，人口の減少，高齢化，競合店の郊外進出，モータリゼーションの発達などにより，店舗数と従事者数が減ってきているが，販売形態の多様化他の地域との商取引の多角化，広報活動などの販売の工夫によって販売額を伸ばしていることを理解する。

5. 指導計画 (全13時間)

次	時	学習のねらい	主な発問と学習活動	教材
1	1	河内町には、様々な店があり、そこで買い物していること、他の町の店も利用していることを知り、店はどんな所に立っているか考える。	<p>みんなのお家はどこの店で買い物をしていますか。</p> <p>* どんな店で買い物をしているか相互に交流する。</p> <p>* 自分で調べた店を地図上に表し、立地条件を考える。</p>	* 河内町広域地図
	1	河内町の店の数は減っているが、販売額が増えていることに気づき、疑問点から学習課題を設定できる。	<p>河内町は人口が減り、店の数も減っているのに、なぜ、たくさん買われているのだろう。</p> <p>* 自動車保有台数、人口、店舗数のグラフから消費活動の広がりや商取引の停滞の理由を考える。</p> <p>* その中で販売額が増えていることに疑問を持つ。</p>	<p>* 年齢別人口・店舗数・自動車種類別保有台数グラフ</p> <p>* 販売額推移表</p>
河内町の商店のひみつを見つけよう！				
2	1	河内町のスーパーマーケットを見学する計画を立てることができる。	<p>どんなひみつがあるか予想してみよう。</p> <p>○どんなことを調べたら、ひみつを見つけられるだろう。</p> <p>* どんな質問を誰にしたらよいか考える。</p> <p>* 質問の順番と必要な機材を考える。</p>	* 見学計画表
	3	実際に見学し、インタビュー活動などから、スーパーマーケットのひみつについて予想を検証する。	<p>* 店の立地位置商品の種類、ディスプレイ方式、仕入先、営業時間、広報活動などの販売の工夫について調べる。</p> <p>* 購入する人は品物の質や安全性、価格、便利さなどを考えて購入していることを知る。</p> <p>* 販売者は消費者のニーズを考えて、工夫していることに気づく。</p>	<p>* 見学ノート</p> <p>* カメラ</p> <p>* テープレコーダー</p>
	1	見学したことを、売る人、買う人、それぞれの工夫の視点でまとめ、交流することができる。	<p>○商店にはどんなひみつがかくされていましたか。</p> <p>○買う人はどんなことを考えて買っていましたか。</p> <p>* 自分自身の予想がどうであったか考え、どのような工夫があったか、双方の立場からまとめる。</p> <p>* まとめたことを交流し、様々な工夫があることに気づき、河内町の商店のひみつをまとめる。</p>	<p>* 見学ノート</p> <p>* 写真</p> <p>* テープレコーダー</p>
3	4	今までの学習から、河内町にはどんな店が必要か考え、自分なりの店を考え、表現する。	<p>○河内町に新しくスーパーを作ることになりました。店を作るとしたら、どこに、どんなお店をつくりませんか。</p> <p>* 消費者と販売者、双方の考えに基づき、自分なりの考えた店舗を考える。</p> <p>* 同じ考えの人とグループになり、パソ</p>	<p>* 見学ノート</p> <p>* グラフィックスソフト</p> <p>* ホームページ作成ソフト</p>

		コンでデザインし,HTML化する。	
2	作成した店について,グループごとに発表し友だちや実際のお店の人と交流する中で,さらに考えを深める。(本時)	○河内町のどんなところに,どんなお店を作ったか発表しよう。 *立地と工夫について,根拠を明らかにしながら発表させたい。 *お店の人にはいいところと工夫したほうがよい点について,理由を明らかにしながら話していただきたい。	*作成したWebページ *インターネット

6. 学習指導の展開と評価

【第3次】

学習活動	指導の意図	評価の観点
1 学習問題を確認する。	もしみなさんが,スーパーマーケットを建てるなら,どんなお店を,どこに建てますか。	・学習の準備ができているか。
2 グループで考えたスーパーマーケットの立地場所とお店の特徴を発表する。	○前時までに考えたスーパーマーケットの立地条件と販売の工夫を確認して,それをふまえて発表させたい。 ○聞いている人は消費者の立場で聞き,次の視点でランキングする。 ・店は道路に面したところにある。 ・店は住んでいるところから近い場所または駐車場がある場所にある。 ・店には,多様な商品が並んでいる。 ・店には,新鮮な商品が並んでいる。 ・店には,消費者のためのサービスがある。 ・店には河内町ならではの特征がある。 ・店を紹介するために広告などの宣伝をおこなう。	・学習した事実に基づいて,理由付けして発表しているか。 ・発表者は事実と意見の区別ができているか。 ・聞く人は消費者の立場で聞いているか。 ・理由を考えて発表しているか。
3 個にもどり,それぞれのお店のいいところを発表しあう。	○消費者の立場からどのお店が繁盛するか,その根拠を考えさせたい。	
4 本時のまとめをする。	○スーパーマーケットの人に,それぞれのお店について良いところをもっと考えたらよい点を講評していただく。	
5 学習の自己評価をし,感想を書く。	○Webページとして,全国に発信して,いろんな人にお店について意見をお願いすることを知らせ,意欲を持続させたい。	・自分の考えを明らかにした感想になっているか。